

地域社会と連携した体験型環境教育の試み

——環境 NPO との連携を中心に (1) ——

藤野裕弘^{*1}・内田晴久^{*1}・室田憲一^{*1}・北野 忠^{*2}・
藤吉正明^{*2}・藤田成吉^{*1}・小澤紀美子^{*1}

1. はじめに

人類の持続的な存続を可能とするためには、環境問題を広い視野から考え、問題の解決に向けて行動できる人材の育成が必要となる。その様な人材育成には、人文・社会・自然科学の垣根を越えた学際的で実践的な教育プログラムの構築が極めて重要となる。その中でも実践的な環境教育への期待は大きく、2000年には国連における日本主導の「持続可能な開発のための教育の10年」がスタートした¹⁾。さらに、日本では環境教育を推進し、国民の環境保全意識を高めることを目的とした「環境保全活動・環境教育推進法」が2003年に成立した²⁾。現在、多くの教育現場では、小学校～高校の「総合的な学習の時間」を活用した環境教育や各地域のNPO法人による環境教育、大学と初等中等教育との連携による環境体験プログラムなど、様々な取り組みがなされてきている。

東海大学では、環境分野における文理融合型の人材育成および研究の向上を図り、その成果を、積極的に地域・社会に還元することを目的の一つとした環境憲章を1997年に発表している³⁾。

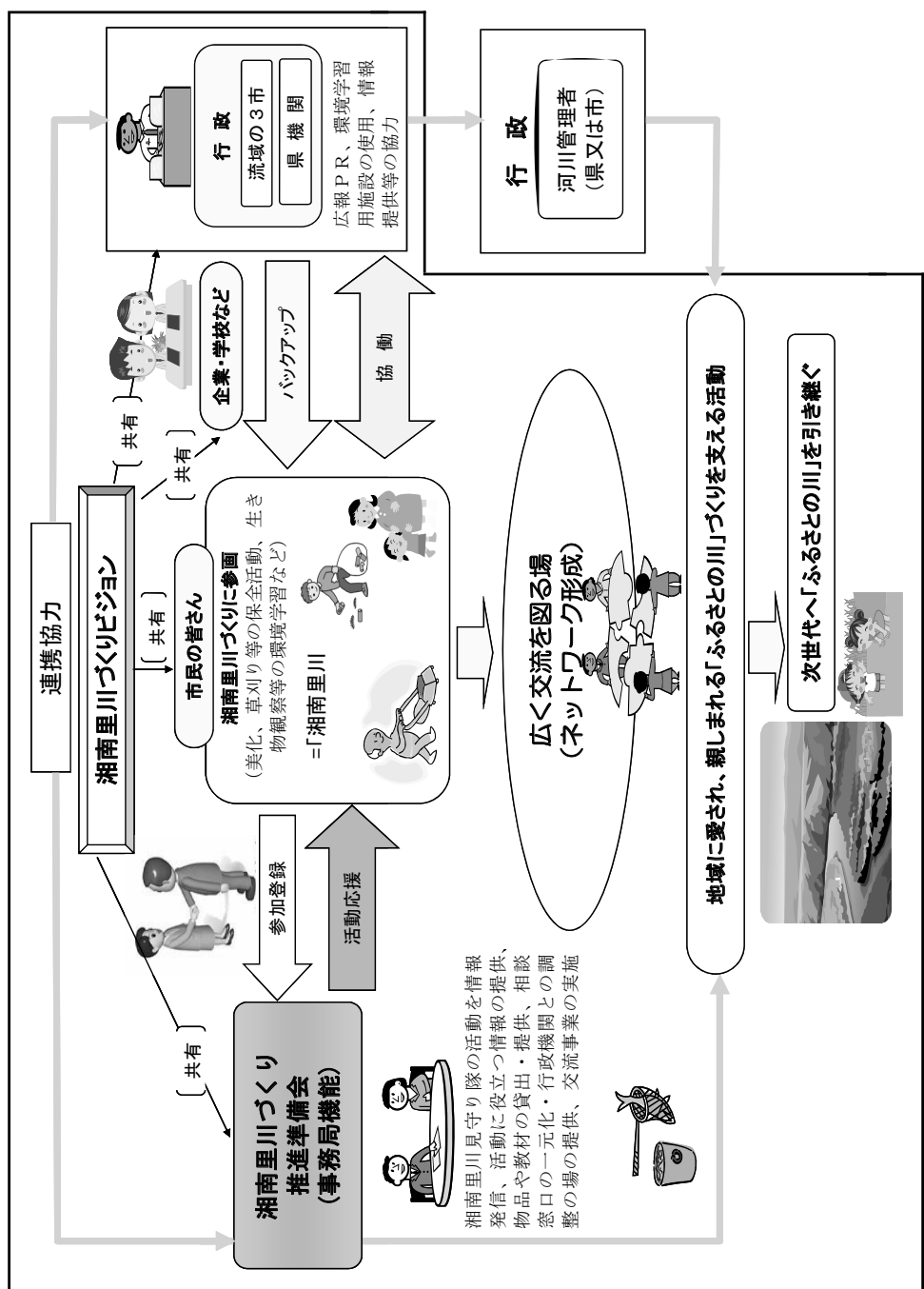
東海大学教養学部人間環境学科では、自然科学と社会科学を融合させた学際領域として「人間環境領域」を構築し、理系と文系を融合させた、より学際的・総合的な視野で環境問題を認識し、解決策を考察できるような学外での様々な体験を重視した環境教育が具体化されている⁴⁻¹⁷⁾。大学院人間環境学研究科でも文理融合の実践教育が展開されている。こうした背景のもと、我々は、高校と連携した体験型環境教育を実施してきた¹⁸⁻²²⁾。また、昨年度は、人間環境学科自然環境課程と人間環境学研究科、神奈川県湘南地域県政総合センター、NPO 法人東海大学地域環境ネットワークが協同して体験型環境教育を実施した。今回は、自然環境課程と人間環境学研究科、NPO 法人東海大学地域環境ネットワーク、湘南里川づくり推進検討会（神奈川県湘南地域県政総合センター他）が連携して実施した「湘南里川づくりフォーラム2010」について報告する。湘南里川づくりの概要は資料1～3にまとめて示した。

受理日2010年11月24日

*1教養学部人間環境学科自然環境課程教授

*2教養学部人間環境学科自然環境課程准教授

資料 1. 湘南里川づくりの仕組み全体イメージ



(資料 2-1)



資料 2. 湘南里川づくりの取組みについて

1 「湘南里川づくり」って？

「湘南里川づくり」とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民（湘南里川見守り隊）と行政の協働により清掃、植栽、生き物観察会など河川等の保全・活用に取り組む活動のことです。

個々の活動をネットワーク化し、「湘南里川づくり」を流域全体に広めるため、流域で河川等の保全・活用に取り組む「湘南里川見守り隊」の活動を支援する、市民中心の新しい組織を平成 22 年度中に設立することをめざしています。新組織を滞りなく設立・運営できるよう、事前に「試行」として、この度、「**湘南里川づくり推進準備会**」を立ち上げました。

2 金目川水系とは？

金目川は、丹沢大山山塊の南麓を源流とし、水無川、葛葉川、鈴川、渋田川など平塚市、秦野市、伊勢原市域を流れる二級河川や中小の河川、水路などと合流して相模湾に注ぐ、流域面積が 184.17km² の水源から河口までが湘南地域の河川です。

金目川本流をはじめ、これに合流する河川や水路などを総称して「金目川水系」と呼んでいます。

【金目川水系の流域マップ】



3 「湘南里川づくり」の活動をどうやって広げていくの？

市民が中心となった次のような仕組みにより、「湘南里川づくり」の活動を金目川水系の流域全体に広げ、次世代へ「ふるさとの川」を引き継いでいきます。

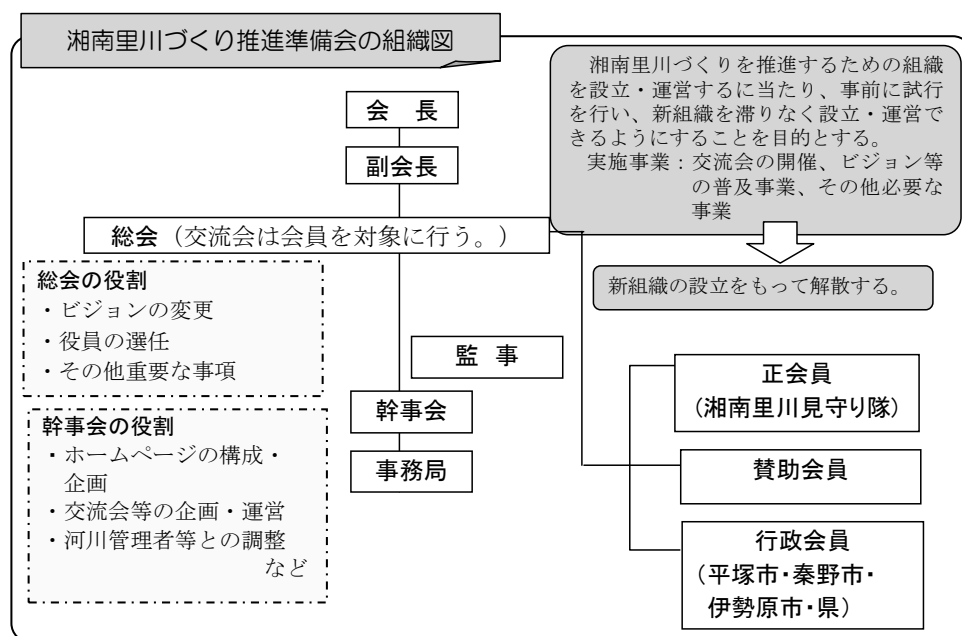
4 「ビジョン」ってなあに？

「湘南里川づくり」の目的を達成するにあたって、湘南里川づくりに携わる全員で共有しておくべき基本的な考え方や方向性を、地域の特性を踏まえた流域の「理想像」として提示するものです。

詳細は、ビジョンのパネルをご覧ください！

(資料 2-2)

5 湘南里川づくり推進準備会って、どんな組織なの？



6 湘南里川見守り隊とは

「湘南里川づくり」にご賛同いただき、金目川水系の流域で、具体的な河川の保全・活用計画を持って、活動する市民活動団体、個人、企業、教育関係の方々に、「湘南里川見守り隊」として、「湘南里川づくり推進準備会」に会員登録された方のことです。

登録料・会費は、無料*です。

みんなで、活動情報を交換したり、金目川水系の理想像について語り合いませんか？

* 準備会による実施結果を踏まえ、必要に応じて支援内容や会費等を見直した上で、新組織を設立します。設立時には、変更内容をお知らせの上、会員継続のご意向を確認します。

7 湘南里川見守り隊になるとこんなメリットがあります！

次のような支援を受けることができます。

○ 「湘南里川見守り隊」の活動を情報発信します。

日ごろの活動をPRしたり、会員やイベントへの参加者・ボランティアをホームページ上で募集することができます。

○ 「湘南里川見守り隊」が活動する上で役立つ情報を提供します。

活動する上で利用可能な施設、生き物観察会などを開催するためのマニュアル、流域の生き物情報などを主にホームページ上で提供します。

○ 準備会が所有する物品・教材などを貸出し又は提供します。

のぼり旗、網、水温計、胴長、ゴミ袋などがあります。

○ 金目川水系の河川の保全・活用に関する各種相談窓口の一元化や、行政機関との調整の場を提供します。

「湘南里川見守り隊」になるには、登録申請が必要です。

(資料 3-1)



資料3. 県民と行政との協働による湘南里川 づくりを推進するためのビジョン

1 ビジョンってなあに？

「湘南里川づくり」の目的を達成するにあたって、湘南里川づくりに携わる全員で共有しておくべき基本的な考え方や方向性を、地域の特性を踏まえた流域の「理想像」として提示するものです。

具体的には・・・

自然環境や景観といった地域の特性を踏まえ、流域を6つのエリアに区分した上で、そのエリアごとに、「基本的な考え方のうち、特に特徴的な項目」と「理想像（中長期的にエリアが目指す姿）」をお示ししています。

なお、ビジョンは、固定したものではなく、里川づくりを推進する組織により、川を取り巻く環境の変化に応じて見直しを積み重ね、将来に渡ってよりよいものを目指すようにするものです。

2 湘南里川づくりのめざす方向

「湘南里川づくり」のめざす方向を、次の「3つのキーワード」で表わしています。

①「世代を超えて川を身近に」

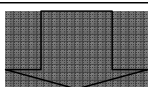
子どもから大人まで環になって川を身近にしよう

②「川が繋ぐ人のつながり」

川から笑顔とやさしさと人のつながりを広げよう

③「川が育む地域再生」

川とともに地域再生を目指そう



この3つの方向をめざし、次の8つの基本的な考え方にに基づき、湘南里川づくりに取り組みます。

(資料 3-2)

3 湘南里川づくり推進するための基本的な考え方

湘南里川づくりを推進するための8つの基本的な考え方をご紹介します！

(1) 川辺の自然を守ろう

自然環境のあるがままの姿を尊重して保全することを基本として、大切に守りながら次世代を担う子どもたちに引き継いでいくことを目指します。

(2) 川と親しもう

川の中に生息する水生生物の観察など、積極的に水と親しむ機会をつくることを通して、川が育む生命の大切さを学び、「川が繋ぐ人とのつながり」や子どもたちの心の原風景づくりに繋がります。



(3) 川をよく知ろう

かつての「暴れ川」金目川本流に対する先人たちの労苦とともに、川の怖さ、水の怖さを知り、天候や時期を見極め、安全を確保する術を学ぶことを伝えていきます。

(4) 川を日々の生活と身近なものにしよう

身近な水辺を美しい景観と良好な自然環境として維持し、散歩やジョギングなどを通して、心と体が浄化され人々が憩える場所となるよう、地域による美化清掃活動に心がけるなど生活と身近な川辺空間にします。



(5) 川と農業(産業)との関わりを学ぼう

広大な田園風景を貴重な地域の財産として保ちながら、農業を営む方々と協調して、川の恵みを分かち合い、体験による学びを通して相互の理解と協力関係を深めていきます。

(6) 歴史と文化を知ろう

金目川水系にまつわる先人たちの積み重ねた営みや、流域に存在する貴重な歴史・文化資源を知ることを通じて、流域の魅力を再発見しながら川と地域への愛護心を育みます。

(7) 湧水域を大切にしよう

金目川水系の特徴でもある地下水の窓である湧水スポットを活かしながら、地域に親しまれ、愛される地域づくりを目指します。



(8) その他

川をこれ以上汚さないために、身近にできる様々な活動を広げるとともに、清流の良さなど自然を学ぶ機会を増やします。

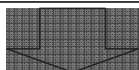
(資料 3-4)

農業エリア(農地ほか)

金目川水系の流域は広大な水田地帯を形成しており、県内の水田面積では平塚市が最も広く、秦野市と伊勢原市を合わせた水系の3市で県全体(3,092ha)の30%を占めています。他の5つのエリアを除く流域をこうした豊富な農地で形成された地域として一括りにまとめるものとします。

5 ビジョンの記載内容

エリア別に、こういった内容が記載されているのか、実際に、水源流域エリアのページを参考にしてみましょう！

**1. 水源流域エリア**〔主な河川:金目川・葛葉川・水無川・鈴川の源流域〕**(1) 川辺の自然を守ろう****(6) 歴史と文化を知ろう**

8つの基本的な考え方のうち、特徴的なもの

<理想像>

金目川の水源地として重要なエリアです。水源涵養林として豊かな森を保全するために、森林の整備や扇状地末端の湧水調査が行われています。また、上粕屋地区、名古木地区の水田維持再生や、山際地域の宅地開発抑制により上流河川の水量が確保されています。

(以下略)

中長期的な視点での、そのエリアの目指す姿である「理想像」

<主なスポットと地域資源>

- ① きれいな水スポット (春山、竜神の泉、くずはの泉、大山八段滝など)

(以下略)

各エリアの特徴ある地域資源を考慮して7つのスポットを設定。ふさわしいと考えられるものをそれぞれのエリアに提示。

- ①きれいな水スポット ②水生生物観察スポット ③野鳥観察スポット ④ジョギングと散策スポット ⑤花のスポット ⑥農産物収穫体験スポット ⑦歴史探訪スポット

<拠点的な施設等>

- 秦野市表丹沢野外活動センター、大山公民館 (伊勢原市)

<理想像の実現に向けた活動例>

- 放置された谷戸田を開墾し、水生生物の生息環境を再生する。

<主な既存の活動内容>

- 県内高校生を対象とした秦野市蓑毛での自然環境と生物への人間生活の影響を考える体験研修(東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程)

2. 湘南里川づくり

「湘南里川づくり」とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の豊かな自然や文化、それらと調和したくらしなどを子孫に残すべき貴重な財産として、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、源流から下流に至る全流域を対象として、市民（湘南里川見守り隊）と行政の協働により清掃、植栽、生き物観察会など河川の保全・活用に取り組む活動のことである（資料1～3）。

また、「湘南里川づくり」の目的を達成するため、全員で共有しておくべき基本的な考え方や方向性を、地域の特性にあわせた流域の理想像（ビジョン）として提示している。キーワードとしては、「世代を超えて川を身近に」、「川が繋ぐ人のつながり」、「川が育む地域再生」を設定している。

なお、「湘南里川見守り隊」は、「湘南里川づくり」に賛同した市民活動団体、個人、企業、教育関係者で、湘南里川づくり推進準備会に会員登録した方々である。

3. 実施概要

「湘南里川づくりフォーラム2010」は、2010年中に試行を始めた「湘南里川づくり」を流域で活動する方々などに広く周知するとともに、2011年度中の本格実施に向け、参加者の意見を集約し、仕組みに反映させる目的で企画された。実施日時は2010年1月31日（日）、場所は東海大学湘南校舎10&13号館各教室とSプラザである。全体会議（フォーラム）では、湘南里川づくりのビジョンと仕組みについて説明を行い、参加者全体で意見を交換した（写真1～3）。それとは別に、Sプラザにおいて、シンボルマーク等の応募作品と流域における活動団体の紹介パネル展示を行った（写真4）。展示パネルの一部を、写真5と6に示した。また、フォーラム終了後、懇談会を実施した。

スケジュール	
1	開会のあいさつ
2	湘南里川づくりの概要について説明（これまでの検討状況）
3	湘南里川づくりシンボルマーク採用者等の表彰式
4	湘南里川づくり推進協議会（仮称）の設置に向けた取組みについて
<休憩>	
5	湘南里川づくりのビジョンについて
6	意見交換
7	閉会のあいさつ



写真1 湘南里川づくり概要説明



写真2 シンボルマーク採用者表彰式



写真3 フォーラムでの意見交換の様子



写真4 パネル展示の様子

4. 結果と今後の展望

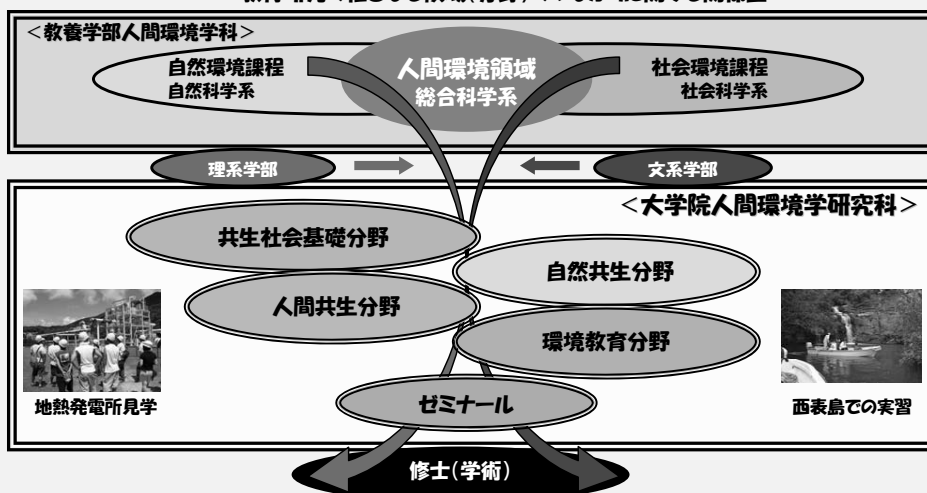
湘南里川づくりにおいて、流域で活動する NPO 法人や市民団体の交流は非常に重要である。この点については、参加者の共通認識であり、これらの団体の情報交換やネットワーク構築には、今回企画したフォーラムは有効な手段であると判断できる。参加者からも、継続的に実施すべきという声が多く、位置的にも東海大学は適地と判断できる。また、このような活動に学生や院生が、企画段階から参加することは、「学外での様々な体験を重視した環境教育」を積極的に展開している自然環境課程や人間環境学研究科にとって、目的に沿った理想に近い実習の機会を得ることになる。次年度には、この点も十分考慮して、同様の企画を継続的に実施する必要があると考えられる。2011年度は、企画段階から参加できるよう、大学院生が準備を進めている。

課題としては、大学（自然環境課程、人間環境学研究科）と行政（神奈川県湘南地域県政総合センター）、NPO 法人東海大学地域環境ネットワークなど、複数の組織が連携して実施することから、組織間の調整が重要となる。

また、多くの市民団体が参加することから、大学生や大学院生の若い世代と地域住民との世

東海大学大学院人間環境学研究科

教育研究の柱となる領域(分野)のつながりに関する関係図



地熱発電所見学

私たち人間環境学研究科と金目ネットと東海大学地域ネットの人達と協力して地域の環境保全と地域社会の活性化に役立つために活動しています。

大学院生が授業の一環として企画・実施した事例です！

★道志の森キャンプ(9月 道志村)
相模川水系の水資源利用と水環境保全を考える！！



夜も自然と一体化
のキャンプファイヤ
ーで温まりながら



この水は
キレイかな!?



ダム見学では、相模湖ダム、城山ダム、宮ヶ瀬ダム
に行ってきました。ダムに流れる流木やゴミの多さ
に驚きました。また、宮ヶ瀬ダムでは、ダムの役割や
自然環境と人との関わりの話をしてもらいました。

これまでの活動を通して、金目ネットの人たちや学部の学生達
みんなで水源環境の大切さを考えるきっかけを得る事が出来ました。

写真5 展示パネル①

NPO法人東海大学地域環境ネットワーク

目的: 地域の環境保全と地域社会の活性化に役立つことを目的としています。

<活動計画Ⅰ>

1. 地域環境教育の推進

- ① 野外環境体験実習
- ② 環境保全出前授業
- ③ 環境教育フォーラムの開催



野外環境体験実習



環境保全出前授業



棚田での農業体験



フォーラムの開催

<活動計画Ⅱ>

2. 地域社会の活性化に配慮した地域コミュニティの創成活動

- ① 都市環境を考えた市民参加のまちづくり
- ② 農村環境を考えた地産地消運動と推進活動
- ③ 都市部と農村部の新しい連帯を考えるフォーラム開催

活動内容の紹介

★金目川の生き物観察会(8月 金目川)

子どもたちに地域の自然に親しんでもらうため、地元の金目小学校とみずほ小学校の児童を対象とした金目川の生き物観察会を実施しました。

START



水中に棲む生き物調べ



何ていう生き物だろう?



みんなで作るミニ水族館



網を使って集めた金目川の魚や虫などを大学の教員や学生地域の人がわかりやすく解説し、子ども達は元気よく生き物に触れて充実した自然体験をしました。

写真6 展示パネル②

代間交流の場ともなり、環境教育だけでなく他の分野においても有効な教育の手法であると考えられる。

加えて、自然環境課程と人間環境学研究科は、人文・社会・自然科学といった様々な分野を専門とする教員から構成されている。行政やNPO法人与連携することで、非常に広い視野、視点から実践的教育プログラムを企画、実行していくことが可能であり、学生の教育や地域社会の活動に貢献できるものと考えられる。

成果の公表

本研究は、「環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(5)」¹⁶⁾と「地域社会と連携した体験型環境教育の試み(2)―初等中等教育との連携を中心に―」²¹⁾の成果を背景に実施しており、その成果の一部は、「環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(6)」¹⁷⁾と「地域社会と連携した体験型環境教育の試み(3)―初等中等教育(SSH)との連携を中心に―」²²⁾に反映されている。

謝辞

この教育研究の一部は、2009年度の教育研究補助金により実施された。関係各位に、感謝申し上げます。

引用文献

- 1) ESD―J特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議
<http://www.esd-j.org/>
- 2) 環境省総合環境政策局環境教育推進室、環境教育・環境学習、環境保全活動
<http://www.env.go.jp/policy/edu/>
- 3) 東海大学環境憲章 <http://www.u-tokai.ac.jp/banner/kankyouden.html>
- 4) 室田憲一・藤野裕弘 他：NPOと連携した体験学習型教育の試み。2003年度日本環境学会第29回研究発表会講演要旨集。PP.178-180(2003)。
- 5) 室田憲一・藤野裕弘 他：NPOと連携した体験学習型教育の試み。東海大学紀要教養学部。第34輯。331-333(2003)。
- 6) NPO法人自然塾丹沢ドン会編集：名古屋の自然―丹沢の雑木林・棚田の復権と生き物たち、夢工房、神奈川。PP.63(2003)。
- 7) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験学習型環境教育の試み(1)。2004年度日本環境学会第30回研究発表会講演要旨集。PP.84-85(2004)。
- 8) 室田憲一・藤野裕弘 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(1)。東海大学紀要教養学部。第35輯。271-276(2004)。
- 9) 室田憲一・藤野裕弘 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(2)。2005年度日本環境学会第31回研究発表会講演要旨集。PP.240-243(2005)。
- 10) 室田憲一・藤吉正明 他：環境NPOと連携した体験学習型教育の試み―農業体験事例報告―。東海大学紀要教養学部。第36輯。1-11(2005)。

- 11) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み (2)．東海大学紀要教養学部，第 36 輯，249-255 (2005)．
- 12) 藤野裕弘・藤吉正明 他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み (3)．東海大学紀要教養学部，第 37 輯，247-252 (2006)．
- 13) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み (1) —乗船体験実習—．2007 年度日本環境教育学会第 18 回大会研究発表要旨集，PP. 65 (2007)．
- 14) 室田憲一・藤吉正明 他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み (2) —農業体験実習—．2007 年度日本環境教育学会第 18 回大会研究発表要旨集，PP. 66 (2007)．
- 15) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み (4)．東海大学紀要教養学部，第 38 輯，271-278 (2007)．
- 16) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み (5)．東海大学紀要教養学部，第 39 輯，289-294 (2008)．
- 17) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み (6)．東海大学紀要教養学部，第 40 輯，365-370 (2009)．
- 18) 北野忠・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み—SPP を利用した具体的取り組み例—．東海大学紀要教養学部，第 36 輯，13-21 (2005)．
- 19) 北野忠・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み—SPP を利用した具体的取り組み例—．2006 年度日本環境教育学会第 17 回研究発表会講演要旨集，PP. 146 (2006)．
- 20) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み (1) —初等中等教育との連携を中心に—．東海大学紀要教養学部，第 38 輯，279-285 (2007)．
- 21) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み (2) —初等中等教育との連携を中心に—．東海大学紀要教養学部，第 39 輯，295-301 (2008)．
- 22) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み (3) —初等中等教育 (SSH) との連携を中心に—．東海大学紀要教養学部，第 40 輯，371-377 (2009)．